

施策マネジメントシート

基本施策名	魅力あるまちづくりの推進	施策統括課	国立駅周辺整備課	氏名	加藤志穂
政策名	都市基盤	主な関係課	富士見台地域まちづくり担当、南部地域まちづくり課、まちの振興課、道路交通課、都市計画課、環境政策課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか)＊人や自然資源等
・市民 ・事業者 ・市内全域

② 施策の目的
それぞれの地域の特性や魅力を活かした都市機能の整備が行われ、恵まれた自然と歴史ある文化遺産と調和しつつ、利便性や快適性、防災面からみた安全性を兼ね備えたまちづくりを進めます。

③ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 人口	人
イ 事業者数	事業所
ウ 市域面積	km ²
エ	

④ 成果指標 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない		
名称(展開方向ごとに記載)		
単位		
1	ア 国立駅周辺まちづくり事業の進捗率	%
	イ 旧国立駅舎及びその周辺で活動に参加した人数	人
2	ア 富士見台地域の居住人口	人
	イ	
3	ア 国立市南部地域整備基本計画における南部市街地整備の進捗率	%
	イ 狭あい道路拡幅整備の申請件数	件
	ウ 南部地域における町名地番整備率	%
	エ 南部地域が魅力的だと思う市民の割合	%
4	ア JR南武線連続立体交差事業に伴う市街地整備の事業化進捗率	%
	イ	

2 第2次基本計画期間(令和2～令和9年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1 回遊性のある国立駅周辺地域のまちづくり	文化財である旧国立駅舎を中心とする国立駅周辺地域を、回遊性のある空間とすることにより、国立市の魅力を高めます。	◆国立駅南口の駅前広場整備、国立駅周辺の道路整備等を進めることにより、だれもが歩いて街を楽しめる回遊性のある空間を創出します。 ◆市民に必要な機能を有する公共施設、旧国立駅舎周辺の広場空間及び円形公園等の整備を進め、それらを中心に「市民が集い、来訪者を迎え、にぎわいと交流のある」空間を創出します。 ◆再築された旧国立駅舎をまちの魅力発信の拠点として活用し、回遊性を高め、まちの活性化につながるよう施設運営を行います。
2 多世代が安心して暮らせる活力に満ちた富士見台地域のまちづくり	富士見台地域を、少子高齢社会に対応した、だれもが暮らしやすい理想的な住空間とし、多世代が安心して暮らせる地域とすることにより、国立市の魅力を高めます。	◆地域住民、UR都市機構、東京都と協働して、まちづくりの方向性を示した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」の実現に向けて取り組みます。 ◆富士見台地域における、公共施設の再配置の検討を行います。 ◆矢川公共用地(都有地)を活用して複合公共施設を整備し、施設を拠点に、周辺地域を巻きこんだまちのにぎわい創出に取り組みます。
3 歴史・文化・自然環境と調和した南部地域の基盤整備	市街地整備の事業化に向けた調査・検討を行うとともに、区画道路における歩行者・自転車通行の安全性確保や消火活動の円滑化などを目指して、既存道路の拡幅整備により狭あい道路を解消します。 また、南部地域の特徴である歴史・文化・自然環境を保全することで、魅力あるまちづくりを推進します。	◆南部地域を形成する大きな要素である歴史・文化、環境、農地等の自然環境の保全に配慮した南部地域のまちづくりを計画的に推進していきます。 ◆市街地を整備するため、土地区画整理事業や市街地再開発事業等による基盤整備を推進するとともに、市の財政負担や関係市民の経済的負担を考慮して、整備手法の見直しや地区計画等の制度を活用したまちづくりも検討します。 ◆「南部地域狭あい道路整備方針」に基づき対象路線の拡幅整備を進めるとともに、地権者からの用地寄付等にかかる諸費用に対して市が支援することにより、南部地域における計画幅員4m以上道路の整備を計画的に推進します。 ◆平成26(2014)年4月に改正した「国立市町界町名整理に関する基本方針」に基づき、分かりにくい町名や地番の整理改善作業を計画的に推進します。
4 JR南武線の連続立体交差と連動したまちづくり	JR南武線連続立体交差事業により、安全な歩行・交通環境の整備、防災機能の向上を図るとともに、駅周辺地域のまちづくりやJR南武線と交差する都市計画道路及び都市計画公園の整備を進め、安全で快適なまちづくりを進めます。	◆踏切渋滞や踏切事故、鉄道による地域の分断などを解消し、人にやさしいまちづくりを実現するため、東京都、隣接市、鉄道事業者等の関係者と連携して、JR南武線連続立体交差事業による鉄道と道路との立体交差化を促進します。 ◆JR南武線と道路との立体交差化等により踏切事故や踏切遮断による交通渋滞を解消し、より安全で快適な歩行空間を整備します。 ◆谷保駅及び矢川駅の周辺地域は、土地区画整理事業や市街地再開発事業等による基盤整備を検討するとともに、谷保駅周辺では踏切道の拡幅等による歩行・交通環境の整備など、矢川駅周辺ではJR南武線と道路との立体交差化等に伴う安全で快適な歩行・交通環境の整備などを進めます。 ◆JR南武線連続立体交差事業にあわせて、都市計画道路3・3・15号線、3・4・5号線及び3・4・14号線の整備を推進します。 また、矢川上土地区画整理事業の見直しに伴い、区画整理区域に計画区域が含まれている矢川上公園の拡充整備を進めます。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度								
対象指標		ア	人	見込み値							75,972	目標達成度							
				実績値	76,282	76,423	76,278	76,182	75,816										
		イ	事業所	見込み値								2,657	達成・ 未達成	前年度 比較					
				実績値	2,657	2,657	2,657	2,657	2,657										
		ウ	km ²	見込み値								8.15							
				実績値	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15										
エ		見込み値																	
		実績値																	
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値								未達成	向上						
				目標値	70.5	71.1	71.7	80.6	84.4	84.7	89.3			100.0					
				実績値	70.5	71.1	71.7	72.6	83.9										
				基本計画における 指標の説明又は出典元		国立駅周辺まちづくり事業の進捗率 指標の説明:総事業費に対する当該年度までの事業費執行額の割合													
				イ	人	成り行き値				449,079	449,079			449,079	449,079	449,079	達成	向上	
						目標値	100,000	100,000	380,000	380,000	390,000			400,000	410,000	420,000			
		実績値	378,456			412,767	449,079	464,266	490,531										
		基本計画における 指標の説明又は出典元				旧国立駅舎及びその周辺で活動に参加した人数 指標の説明:旧国立駅舎の来館者数及びイベント等に参加した人数													
		展開方向2	ア			人	成り行き値	17,501	17,358	17,240	17,110				17,000	未達成			低下
							目標値	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	19,000				
				実績値	17,636		17,699	17,594	17,510	17,145									
				基本計画における 指標の説明又は出典元			富士見台地域の居住人口 指標の説明:富士見台地域まちづくり事業区域内の人口(年度開始年の1月1日現在)												
	ア			%	成り行き値					92.0	92.0			92.0	未達成		維持		
					目標値		88.2	90.4	92.5	94.6	96.4	98.2	100.0	100.0					
		実績値	85.9		92.0	92.0	93.9	93.9											
		基本計画における 指標の説明又は出典元			国立市南部地域整備基本計画における南部市街地整備の進捗率 指標の説明:「国立市南部地域整備基本計画」に掲げた市街地整備計画の事業進捗率														
		展開方向3	イ		件	成り行き値				37	37			37		達成		向上	
						目標値	10	14	18	22	26	30	34	38					
	実績値			18		30	37	47	49										
	基本計画における 指標の説明又は出典元			狭あい道路拡幅整備の申請件数 指標の説明:狭あい道路整備方針、要項に基づく整備の申請															
	ウ			%		成り行き値				66.4	66.4			66.4	未達成		維持		
						目標値	66.4	66.4	70.0	70.0	70.0	70.0	75.2	75.2					
		実績値	62.5		66.4	66.4	66.4	66.4											
		基本計画における 指標の説明又は出典元			南部地域における町名地番整備率 指標の説明:実施面積÷南部地域面積(市街化調整区域を除く)×100														
		エ	%		成り行き値									未達成		向上			
					目標値	49.4	51.4	53.4	55.4	57.4	59.4	61.4	63.4						
	実績値			44.8	46.1		44.7	49.1											
	基本計画における 指標の説明又は出典元			南部地域が魅力的だと思う市民の割合 出典:国立市市民意識調査															
	展開方向4			ア	%	成り行き値				0.0	0.0				0.0		未達成	維持	
						目標値	0.0	0.0	0.0	46.2	46.2	46.2	46.2		81.5				
		実績値	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0										
		基本計画における 指標の説明又は出典元				JR南武線連続立体交差事業に伴う市街地整備の事業化進捗率													
		イ				成り行き値													
						目標値													
	実績値																		
	基本計画における 指標の説明又は出典元																		
事務事業数				本数															
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			都道府県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
			一般財源	千円															
		人件費	事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
			延べ業務時間	時間															
			人件費計(B)	千円															
			トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0						

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1) 施策全体の成果実績目標達成度 A(高度に達成)～E(ほぼ未達成)

C:一部の成果指標について目標を達成した

(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

B:成果がどちらかと言えば向上した

(3) 上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

【展開方向1】

国立駅南口駅前広場整備について、設計等に時間を要することから若干の遅れはあるが、着実に事業を進めている。また、旧国立駅舎の来館者数は様々なイベントや情報発信の影響もあり順調に伸びている。

【展開方向2】

富士見台地域の人口及び世帯数は一丁目地区で232人の減少があった。要因として、集合住宅の建て替えなどが考えられる。

【展開方向3】

狭あい道路整備については、順調に整備が進んでいる。

【展開方向4】

矢川上土地区画整理事業の廃止、地区計画の策定、用途地域の変更等に関する都市計画素案説明会を実施し、地域におけるまちづくりの取組が進展した。

5 施策の現状 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

【国立駅周辺地域】

・平成21年11月に策定した「国立駅周辺まちづくり基本計画」に基づき、国立駅周辺における各事業を進めている。
・平成30(2018)年5月に国立駅前にたち・こくぶんじ市民プラザを開設し、令和2(2020)年2月に旧国立駅舎が再築され、4月に開業した。
・平成31(2019)年3月に国立駅北口駅前広場、令和3(2021)年3月に都市計画道路3・4・10号線(南工区)、西1条線延伸部、令和4(2022)年3月に北第1号線、令和7(2025)年3月に西1号線の道路工事が完了し、供用開始した。
・令和5(2023)年2月に東日本旅客鉄道(株)と土地交換契約を締結し、旧国立駅舎周辺の土地を取得し、令和6年1月より国立駅南口駅前広場基本設計業に着手した。また、JR東日本グループが建設した賃貸住宅棟の1階に国立駅南口子育て・子育て応援テラスを整備し、令和7年7月に開設予定である。

【富士見台地域】

・国立富士見台団地は創設から50年が経過し、他UR団地と同様に、高齢化率の上昇、空室率の上昇等の課題が生じている。また、東京都により、都営矢川北アパートの建て替え事業が進んでおり、高齢化対策とともに建て替え後の団地で安心して暮らすことができる環境の整備が課題となっている。
・平成29(2017)年度策定の「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」の実現を目指し、令和3年5月「国立市富士見台地域重点まちづくり構想」を協働まちづくりの手引書として策定した。
・都営矢川北アパートの建て替えに伴い都と協定書が結ばれ「くにたち子どもの夢・未来事業団」が運営する矢川保育園は令和3(2021)年4月に開設した。「くにたち未来共創拠点矢川プラス」は令和4年に竣工し、令和5(2023)年4月に開設し子ども家庭部に移管した。
・公共施設が集中している地域で老朽化が進んでいる。あわせてUR賃貸住宅を中心とした団地においても、住環境の課題が顕在化しており、ビジョンや構想を実現する過程において、それら公共施設の再編と団地再生の方針や配置をURと連携しながら「富士見台重点エリア」として検討し、居住の安定を図りながら、ここからまちの価値を発信していくことが求められている。
・過疎地だけでなく、都心においても、少子高齢化等によるまちの衰退が注目されるようになってきている。魅力ある都市づくり競争が進む中、豊島区・池袋のように各地で市民主体としたまちなか再生の取り組みが行われ人口動態等に影響を与える例が出始めている。

【南部地域】【JR南武線連続立体交差事業】

・令和6(2024)年度に国立市南部地域整備基本計画改定版を策定した。
・矢川上土地区画整理事業の廃止、地区計画の策定、用途地域の変更等に関する都市計画素案説明会を実施し、地域におけるまちづくりの取組が進展した。
・南部地域における市街地整備計画の対象地域では、年々住宅が増加しており面的整備に伴う地域住民の合意形成等がより困難な状況になっている。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

【国立駅周辺地域】

・国立駅周辺整備事業に関しては、各事業に対し、様々な意見がある。
・R7年度予算案に、「国立駅周辺まちづくりの推進。」との付帯決議があった。

【富士見台地域】

・国立富士見台団地の住民、UR都市機構、それぞれが考える今後の団地のあり方には違いがある。
・R7年度予算案に、「居住の安定を十分に考慮しながら、国立富士見台団地の再生及び公共施設再編を推進すること。」との付帯決議があった。
・建替が行われても、都営矢川北アパートの住民が安心して暮らせるよう、求める声がある。

【南部地域】【JR南武線連続立体交差事業】

・南部地域の優先整備路線や狭あい道路の整備、甲州街道の歩道拡幅、町名地番の整理、南武線連続立体交差事業の早期推進に関する要望がある。
・R7年度予算案に、「南武線連続立体交差事業の推進。」「谷保駅周辺まちづくりの推進。」「矢川上地区地区計画の決定。」との付帯決議があった。

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

【国立駅周辺地域】

・JR中央線他駅(他自治体)が大型開発を進める一方、国立駅周辺については、大正末期に民間会社により開発された歴史、景観及び文化などを大切にしながらまちづくりを進めている。

【富士見台地域】

・富士見台地域のまちづくりは、市民・行政・専門家が協働で進めてきた。市民の生活実感の視点を中心に、行政施策の視点、専門的な視点(分析・評価)を加える進め方は、全国的にも先進的と評価されている。
・国分寺市「こくぶんじカレッジ」や、日野市「日野市妄想実現課」と並び、国立市「クラブサバール」も市民主体のまちづくりの取り組みとして多摩圏域を超え注目され、研究者や市民の域外交流に発展している。

【南部地域】【JR南武線連続立体交差事業】

・矢川上土地区画整理事業の廃止、地区計画の策定、用途地域の変更等に関する都市計画素案説明会を実施した。南武線沿線市である立川市においても、令和5(2023)年度に西国立駅駅前広場等の都市計画素案説明会を実施している。

(4) 施策の具体的な取組状況

6年度の取組状況	7年度の取組予定
・国立駅周辺道路等整備事業の内、西第1号線の道路改良工事を実施した。 ・旧国立駅舎を適切に管理運営するとともに、まちの魅力発信拠点として活用した。 ・旧国立駅舎のイベント業務について、令和6年度から業務委託を開始した。 ・旧国立駅舎運営連絡会で旧国立駅舎の管理運営・活用とともに旧国立駅舎周辺のまちの姿について議論した。 ・国立駅開業100周年記念イベントを令和8年度に実施するため、令和6年度に実行委員会を立ち上げた。 ・令和5年度に引き続き旧国立駅舎東西広場や円形公園に加え、南口ロータリーも含めた国立駅南口駅前広場の整備に向け、基本設計を進めた。設計案へ市民意見を反映させるためワークショップや社会実験等を実施した。 ・国立駅南口子育て支援施設の整備工事を実施した。 ・重点PJ01の参加型まちづくりワークショップ「クラブサバーブ」を実施した。事業を通じて参加者による自主企画が市内外で開催された。 ・重点PJ07・08「団地の暮らしを考える座談会」を開催し、団地居住者、UR都市機構、市の三者で議論を重ね、議論の内容を「団地まちづくり通信」にまとめ全戸配布し、団地の暮らしの課題とニーズを取りまとめ、共有した。重点PJ09は、庁内で内部検討を行った。 ・南部地域整備基本計画改定版を策定した。 ・狭あい道路の整備方針に基づき、狭あい道路の拡幅整備を実施した。 ・南武線沿線まちづくり方針及び矢川駅周辺基盤整備計画に基づき、矢川駅及び谷保駅周辺まちづくりの検討を行った。 ・矢川上土地区画整理事業の廃止、地区計画の策定、用途地域の変更等に関する都市計画素案説明会を実施した。	・国立駅周辺道路等整備事業の内、東第1号線の電線共同溝整備事業を行う。 ・旧国立駅舎を適切に管理運営するとともに、まちの魅力発信拠点として活用する。特にイベント事業については、多くのイベント実績を持つ国立市観光まちづくり協会に委託したことから魅力あるイベント発信を行っていく。 ・国立駅開業100周年記念イベントを令和8年度に実施するため実行委員会によりイベント事業の計画を策定する。 ・旧国立駅舎東西広場や円形公園に加え、南口ロータリーも含めた国立駅南口駅前広場の整備に向け、令和6年度末にまとめた基本設計案の周知を行い、市民の意見を聴き基本設計の内容を深めた上で実施設計に着手していく。 ・重点PJ01では活動人口を醸成していくクラブサバーブを、効率化検討の上実施する。 ・重点PJ07、08では住み続けられる住みたくなる団地再生に向け、URや団地居住者と意見交換を継続し、具体的なプランを検討していく。 ・重点PJ09は、市役所本庁舎周辺の重点エリアの団地再生と公共施設再編を連携した、地域の魅力を引き出す未来に向けたまちづくりの検討を行う。 ・狭あい道路の整備方針に基づき、狭あい道路の拡幅整備を進める。 ・南武線連続立体交差事業を事業主体である東京都と連携して進める。 ・矢川駅及び谷保駅周辺整備の調査・検討を進める。 ・矢川上土地区画整理事業の見直しに向けた調査・検討を引き続き進める。

6 6年度の評価結果 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)※基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績
・国立駅周辺地域においては、旧国立駅舎開業から5年が経過し、令和6年度は延べ約49万人の方が来館した。様々なジャンルのイベントを開催するとともに、市内の情報をデジタルサイネージやX(旧Twitter)などで広く周知することにより、まちの魅力発信拠点として活用した。 ・旧国立駅舎東西広場・円形公園に加え、南口ロータリーも含めた整備に向け、ワークショップや社会実験で市民意見を聞きながら国立駅南口駅前広場基本設計を実施した。また、国立駅南口子育て支援施設の整備や施設が面している西第1号線の道路改良工事が完了したことにより駅周辺の回遊性向上が期待される。 ・令和6年度より団地の暮らしの課題とニーズを把握するため、対象を団地居住者に拡大し意見交換した。意見交換の内容は要約して全戸配布し共有した。その結果、団地の再生について具体的な検討を進めるべきとの合意形成に至った。今後は、構想に基づき団地再生事業と公共再編事業を連携した、地域の魅力を引き出すまちづくりを進める必要があり、より一層の市民との対話の場が重要となるため、様々な市民参加の場を継続する必要がある。 ・クラブサバーブにおいて「ヤミイチ」を実施したことで参加者のまちづくりのさらなるマインド向上につながった。修了生のコミュニティーも継続しており、駅舎でのまちづくりイベント、スモールビジネスの創出、ZINE(個人雑誌)によるまちづくりカルチャー発信など具体的なアウトプットにつながり、まちづくりの核として小さいながらも着実な成長が続けている。その取り組みの先進性・独自性から公益財団法人日本都市計画学会が発行する「都市計画374号」にへの論文掲載を通じ外部評価を受けている。 ・市街地整備事業の検討、狭あい道路の整備等の実施により、南部地域の将来像の実現に向けたまちづくりが進展した。 ・南部地域整備基本計画改定版を策定した。 ・矢川上土地区画整理事業の廃止、地区計画の策定、用途地域の変更等に関する都市計画素案説明会を実施し、地域におけるまちづくりの取組が進展した。

○改善余地のある事項・課題等

・市民を含め、まちづくり関係者との合意形成が課題となってくる。引き続き丁寧な対応をとりながら、居住の安定とまちの課題(将来的な課題を含む)を踏まえたまちづくりを進めていく。 ・クラブサバーブは先駆的な取り組みである一方で、なぜ公共事業として実施するのかわかりにくい面がある。今後の消費的財政支出増大に対応するため、まちの多様性と活力を支える予防的投資として、社会関係資本や構想で定めるコミュニティインフラ強化が優先的事項である点について、リテラシー向上の取り組みが必要。

(2) 施策の6年度における総合評価

C	成果実績数値の評価(A～E)に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価 A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。 B:一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。 C:成果向上のため、一層の努力が求められる。 D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。 E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。
---	--

7 施策の課題・今後の方向性 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 8年度の取組方針

・国立駅周辺道路等整備事業を引き続き関係機関と協議を行い、順次調査、設計、工事を行っていく。 ・国立駅周辺道路等整備事業として東第1号線の電線共同溝工事を実施する。 ・旧国立駅舎を引き続き、適切に管理運営するとともに、まちの魅力発信拠点として活用する。 ・旧国立駅舎東西広場や円形公園に加え、南口ロータリーも含めた国立駅南口駅前広場の実施設計を進める。 ・重点PJ01では活動人口を醸成していくクラブサバーブを、効率化検討の上実施する。 ・重点PJ07、08では住み続けられる住みたくなる団地再生に向け、URや団地居住者と意見交換を継続し、具体的なプランを検討していく。 ・重点PJ09は、市役所本庁舎周辺の重点エリアの団地再生と公共施設再編を連携した、地域の魅力を引き出す未来に向けたまちづくりの検討を行う。 ・市道優先整備路線の整備を進めるとともに、日常生活に密着した区画道路では生活の利便性向上、歩行者・自転車通行の安全性確保、通行支障の改善、消火活動の円滑化、公共交通ルート拡充を目的に、新たな制度に基づく狭あい道路の解消に向けた取組を進める。 ・南武線連続立体交差事業の進展に伴い、矢川上地区、矢川駅及び谷保駅周辺のまちづくりに取り組む。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・旧国立駅舎とともに「くにたち」の顔となる広場空間を目指し、旧国立駅舎東西広場や円形公園を含む国立駅南口駅前広場整備事業を適切に進めていく。 ・国立駅周辺道路等整備事業については、引き続き関係機関と協議を行い、令和10年度の完成を目指し、順次調査、設計、工事を行っていく。 ・旧国立駅舎をまちの魅力発信拠点として活用する。 ・構想PJ8.9団地の環境整備、公共施設再編について庁内外関係者と協議の進度に応じて協議を具体化していく。 ・構想PJ1ではコミュニティを核に、市民主体のエリアマネジメントの機運醸成につなげることで、個性的かつ魅力的で持続可能なまちづくりを目指す。 ・市街地整備、狭あい道路の整備を推進する。 ・南武線連続立体交差事業の進展に伴い、矢川駅及び谷保駅周辺のまちづくりに取り組む。
